

【調査結果報告】 地域医療（在宅医療）への支援に関する取組状況

■ 調査概要

目的：地域医療支援病院における在宅医療への支援体制の現状を把握し、地域医療支援病院に求められる役割を検討する

対象：府内の地域医療支援病院（51病院）

期間：8月31日～9月29日（地域医療支援病院に係る業務報告書の提出に合わせて実施）

■ 調査結果まとめ

<現状・実績把握について>

○地域医療（在宅医療）への支援に関する取組は、**100%**の病院が行っており、今後予定している取組・計画がある病院は、約**8割**であった。

（現状の取組例：在宅療養患者の受入 / 予定している取組例：地域関係機関との連携強化、現在の取組の拡充）

○地域包括ケアシステムに対する取組は、約**9割**の病院が行っており、取組内容については、約**7割**が「地域の多職種間連携ネットワークへの参加」であった。

○在宅療養患者の受入実績については、在宅療養患者に限定した計数をしていない病院が多く、受入患者数や実際に情報連携を行った医療機関数等については、把握が困難であることがわかった。

<課題について>

○患者受入時の課題としては、「院内体制の充実」が最も多く、次いで、「地域医療機関との連携」であった。

また、地域医療機関（訪問診療医）等との連携に関する課題としては、「地域での受入体制の構築」が最も多く、次いで「普段からの情報連携」であった。

○入退院支援に関する課題については、「なし」との回答が最も多く、次いで、「意思決定支援が不十分」であった。

■ 今後の取組

- ・地域のかかりつけ医等を支援する役割を担う地域医療支援病院においては、自院での在宅療養患者の受入だけでなく、地域の医療機関と受入に関する役割分担の協議（患者の重症度に合わせた急変時受入体制の構築など）を行うことが期待される。
- ・今後、こうした協議を行うこと等を働きかけていく。